

1～3年 単元名：総合的な学習の時間（海洋学習） 「アマモ場の再生活動」（7時間）

1 単元設定の理由

日生町漁協を中心に30年間に渡り、日生の海を再生する目的で取り組んできた「アマモ場の再生活動」であるが、漁師の高齢化と減少から次世代を担う若者に引き継いでもらいたいとの願いを受け、4年前より活動に参加するようになった。

本活動は、生徒が直接に海を五感で体感できるとともに、生まれ育った地域（ふるさと）を再生することに参画できる。また地域住民との交流の場にもなる。これらのことから、本単元を本校の教育活動の中核に位置づけた。

2 単元目標

漁師から直接に指導を受けながら「アマモ場の再生活動」に取り組むことで、海を身近に体感させるとともに、この活動が海を再生させ、地域の活性化につながり、さらに地球環境の保全に寄与していることを実体験を通して理解させる。

3 単元の評価基準

意欲をもち、真摯な態度で本活動に取り組み、漁師の方々との交流を図っているか。本活動が海の再生と地域の活性化につながっていることを理解しているか。

4 単元の指導計画

時	学習活動	指導上の留意点
1	<p>【事前学習】（4～5月）</p> <p>①昨年度に本活動を行った先輩（2年生）の代表生徒が自分たちの活動内容および目的、思いなどを後輩（1年生）に伝える。</p> <p>②アマモに関する基礎的な知識を学ぶ。</p>	<p>○2年生は自らの活動を振り返りながら、わかりやすくプレゼンにまとめ、後輩に伝える。</p> <p>○アマモおよび海洋に関して多角的な視点から説明させる。</p>
2	<p>【流れ藻の回収作業】（5～6月）</p> <p>①各班ごとに漁師さんの小舟に乗り込み、海面を漂う「流れ藻」をカギ棒や素手で掬い上げ、船上で麻袋に詰め込む。</p> <p>②5～6袋がいっぱいになったら、カキ筏に運び込み、海中に垂らす。</p> <p>③帰校後、学習のまとめと感想を書く。</p>	<p>○班で協力しながらできるだけ多くの「流れ藻」を回収する。</p> <p>○救命胴着を適切に着けているか確認する。（安全指導）</p> <p>○漁師の方の指導を聞きながら、質問をするなど交流を図る。</p>
2	<p>【種の選別・播種作業】（9～10月）</p> <p>①海中に沈めていた流れ藻の入った麻袋を引き上げ、トレイに移して、海水にて繰り返し洗浄することで、アマモの種を選別して取り出す。</p> <p>②漁師さんの小舟に乗り込み、海中に種をまく。</p> <p>③帰校後、学習のまとめと感想を書く。</p>	<p>○班で分担しながら、夾雑物をきれいに洗い流し、沈んでいる種を取り出す。</p> <p>○種の一部を残しておく。（保管）</p>
2	<p>【アマモポットへの播種作業】（10月）</p> <p>小学生が保管しておいたアマモの種をポットに植える作業を指導・サポートする。</p>	<p>○わかりやすく説明しながら作業をサポートさせ、興味・関心をもたせる。（小中連携として行う。）</p>
<p>外部連携</p> <p>○認定NPO法人共存の森ネットワーク ○NPO法人里海づくり研究会議</p> <p>○NPO法人岡山環境ネットワーク ○笹川平和財団海洋政策研究所</p> <p>○寺間・見崎里浜づくり会 ○立命館大学、岡山学芸館高等学校 他</p>		